

長尾台小学校
より



今年度は、学校行事をできるだけコロナ禍前の状態に戻したいと取り組み、1学期には「プールでの学習」を、2学期には「運動会」と「音楽会」を、3学期には「オープンスクール」を実施することができました。どれも簡略化したものではありますが、新たな一歩を踏み出すことができました。皆様方のご理解ご協力の賜物と感謝申し上げます。

長尾台小学校校長：

雲雀丘学園
中高等学校より



課外活動に「地域地域共生ゼミ」を開いたところ、13人が応募してくれました。宝塚社協さんから「ふれあいテラスの活性化」について提案をとの絶好のチャンスを頂き生徒も頑張りました。地域の大人たちと対等に話せる機会や場もなかったのでとてもよかったです。生徒たちの提案を受けていただいたコミュニティの方々に感謝しています。

家庭科担当：

地域地域共生ゼミ 生徒の感想

ゼミで、地域自治会の人、宝塚市の人によってみたいことを伝えたら、実現できて、その活動から、学校では経験できない多くの学びがあったと感じました。自分の意見を言うことを諦めるのではなく、地域という小さな社会で少しづつ問題解決のための活動をしていくことで、日本社会も少しづつ変わっていくのかなと思います。

自治会に協力的な人がこんなにも少なくなっていることに驚きました。今回のゼミに参加して、自分でも解決策を考え、行動に移せることがわかり、自信が持てました。また、このゼミでまだ地域の問題があることに気づきました。

補導委員よりお知らせ

青少年補導委員を募集します

補導という字で誤解されがちですが、「温かく優しく見守る」のが実際の補導委員の仕事です。阪神北少年サポートセンターのお話によると、昨今、少年の犯罪はスマートフォンの普及による犯罪の広域化、仲間同士のトラブル、新たないじめの発生、課金問題などがあげられ、また子供とは思えない深刻な事案も増えているそうです。ネットが絡む問題は、なかなか補導委員の活動では手が届かない現状ですが、私たちは、「いってらっしゃい」「おかえりなさい」「気

を付けてね」と声をかけ、通学路や遊び場、商業施設などのパトロールをして、子供たちが事故やトラブルに巻き込まれないように身近なところの見守りをします。子供たちに大切にされていることが伝わり、少しでも助けになればと思います。

長尾台小学校の補導委員は、メンバー不足が窮状を極めています。お仕事やご家庭でご多忙の中、参加が難しい時もあるかと思いますが、出来る時間に・出来ることを分かち合って進めていけたらと思います。2年毎の更新ですので、まずはご参加いただければ幸いです。

青少年補導委員

私のいちおし本

エミール＝ゾラ「居酒屋」(新潮文庫)

19世紀パリ。場末の労働者街に住む人々の貧困、乱倫、アル中、嫉妬、誹謗中傷等が絡み合う悲惨な生活の物語。この七百頁以上の本を読み「明日への希望や生きる力が湧ってきた!」と言うような感想は聞かれそうもありません。現在、長引くコロナの影響により心身共に疲弊し、自分は大丈夫なのか?

と心配している人も多い筈。しかし「居酒屋」を最後まで読み通す事が出来た人は心も身体も健康と思って間違いないと思われます。

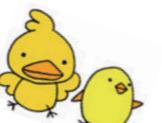
A.Hさん(長尾台2丁目住在)



レギュラー事業

ひばり子ども館

とき 月曜日から土曜日
10時～12時／13時～17時
(日曜日・祝日・年末年始は休館)



ふれあい喫茶「思い出の歌ひろば」

とき 第4水曜日 10時～11時30分
ところ コミュニティセンターにて

コミュニティひばりへのお問合せ・ご意見・ご要望は事務局へ

電話 072-744-2526

mail cohibari@outlook.jp

不在ですが折り返し連絡しますので、留守電メッセージにはご連絡先とご氏名をお願いします。

No. 106

長尾台小学校区
まちづくり協議会
コミュニティひばり
長尾台1-1-1

2023年3月15日発行

宝塚市長尾台小学校区のしんぶん
コミュニティひばり



コミュニティひばり
ブログはこちら



令和4年度の まとめ号



前年にも増して多くのイベントを開催した令和4年。スケッチ・写真のワークショップと展示会、歴史講演会、ひばり祭り、きずきの森のワークショップ、ペット同行の避難訓練の講演と実地訓練。皆さんの協力で膨大なイベントをやり遂げることができました。今回は令和4年度のまとめ号と題してコミュニティの活動と、役員の方々をインタビューを織り交ぜ紹介します。

新しい、面白いことではない
パワー出ない
性分です。



Community President:

で、新しいこと、面白いことではない
やる気がしない、パワーが出ない性分です。

Q: スポクラの会長も長いですね。
A: 子どもが野球部にいたので保護者として手伝っていました。カメラが好きだったので試合を撮影。90分の試合に300枚は撮っているとストーリーが読めてくる。打ち方やキャッチの仕方、子どもの進歩がわかり面白いですよ。

Q: 若い方とのコミュニケーションもよくとておられますね。

A: 40～50代を中心地域をよくするための企画グループができました。任すことでやる気も活性化するのではないかと思います。

事務局長:

今年度は、色々とイベントが有り忙しい年でした。

イベントに係る費用は、幸いにも補助金申請が通り開催出来ることになりました。コミュニティひばりの市からの補助金の約3割が電気代に充てられます。今後、イベントその他を行う時に補助金が付くか未定です、また、各自治会の会員数減少に伴いコミュニティへの協賛金減少が考えられます。今後の運営に危惧しております。

それぞれの立場で助け合う、
チームワーク
が大切。



監査役:

Q: コミュニティではさまざまな役職のサポートをされているありがとうございます。

A: 役職を押し付けるのではなく、その人が苦手なことや体調などアシシデントがあればその部分を引き受けているだけ。いわば「つなぎ手」なればと考えています。やり過ぎたらしんどいですから。

Q: 中々できないことですが、まだ50代、でも若さだけではないそうされる背景にあるのは何ですか?

A: 元医療従事者です。医療はチームワークが不十分だと上手く回りません。コミュニティもそれぞれの立場で助け合えたらと考えます。

Q: 防災士になられた理由は?

A: ふじが丘の自主防災組織の役員になった時に基礎知識を得ようと8年前に三木市で開催していた防災リーダー養成講座を受けました。住んでいるふじが丘は自主防災組織委員が他の地区よりも多くいます。組織を継続していくには工夫も大事ですが。